

当院の医師を紹介します

病院の建物が新しくなった2007年に入職された高橋医師。とても穏やかな先生で、患者さまのお話に耳を傾け、症状の説明も分かりやすく丁寧です。

— 神経内科を専門に選んだ理由をお聞かせいただけますか。

高橋：さまざまな身体症状から病気の原因を推測する過程に興味を持ちました。神経内科の扱う病気は、治療が困難ないわゆる難病も少なくありませんが、近年、進歩のめざましい分野でもあります。

— 当院に入職されて5年になりますが、入職当初の印象をお聞かせください。

高橋：これまでは地方の総合病院に長く勤務していました。それに比べて当院は、全体的に和やかで親しみやすい雰囲気だと思いました。

— 検査適正委員会を担当されていますが、どのような活動をされていますか。

高橋：病状を詳しく知るためには、安全で正確な検査を行うことが必

要です。そのためにも検査科が中心となって各職種が協力することが大切です。また、高い検査の精度を保ちつつ、医療の発展とともに進歩していく検査方法も取り入れながら、安全管理ができるよう検討しています。

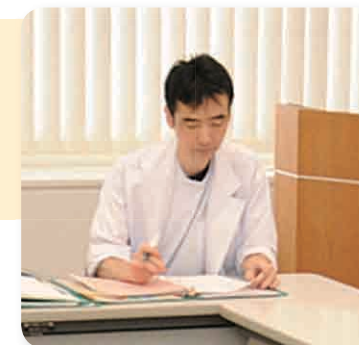
— 回復期リハビリテーション病棟を担当されていますが、どんな病棟でしょうか。

高橋：私が考えていたよりも全身の状態に問題のある方や、さまざまな合併症を抱えた方が多くみられます。単純にリハビリだけがなされるのではなく、一人ひとりの症状や合併症、帰宅後の生活様式まで考え、きめこまやかな診療をしていきたいと思います。

— 日頃の診療で心掛けていることがあればお聞かせください。

高橋：治療の困難な患者さまも多

たかはし はるき
高橋 春樹 医師
藤田保健衛生大学医学部卒
神経内科
日本内科学会認定内科医
日本神経学会 神経内科専門医



いので、本人や家族の話をしっかり聴いて、治療するように心掛けています。

神経内科って？

神経内科は、脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる内科です。体を動かしたり、感じたりすることや、考えたり覚えたりすることができなくなったときに、これらの病気を疑います。

症状としてはしびれやめまい、うまく力が入らない、歩きにくい、ふらつく、つっぱる、ひきつけ、むせ、ろれつがまわらない、ものが二重に見える、頭痛、手足や体が勝手に動いてしまう、もの忘れ、意識障害などたくさんあります。

まず、全身を診ることのできる神経内科で、どこの病気であるかを見極めることが大切です。神経内科の領域ではない疾患の場合には、脳神経外科や整形外科、精神科、眼科など一番適切な科を紹介します。

